

チャレンジ！米づくり

4月～2月（75時間）

1 ねらい

- ・ 米作りを通して、学区の自然に愛着を持つことができる。
- ・ 米作りや自然を守ることの大切さに気づき、課題を見つけ進んで追求活動を行うことができる。
- ・ 米作りのお手伝いをしてくれた学区の方々に感謝の気持ちを持ち、学区の一員としての自覚を持つことができる。

2 実践の概要

本校では、学校周辺に学区の方から使わせてもらっている水田がある。数年前から5年生の子どもたちが米作りの体験をしている。自然と向き合い、自然を育て続けるという貴重な体験である。この体験をより充実させたものにするために、自然を守り育てることの難しさや大切さを学ばせたいと考え、「チャレンジ！米作り」を設定した。

(1) オリエンテーション

4月の後半に、米作りに詳しい学区の鈴木さんを講師に招いて、米作りにあたってのオリエンテーション授業を行った。毎年5年生を対象にして行っており、計画的な米作りのお話があった。これによって今後の見通しが持て、子どもたちも意欲満々であった。

(2) 田起こし・代かき

5月初旬、現場の田んぼに足を運び、田起こしの作業が始まった。

代かきでは、講師の鈴木さんが前もって用水路から田に水を引いておいてくれたので、子どもたちは裸足になって水田をならしていった。鈴木さんが手作りの代かき器を用意してくれ、さっそく子どもたちが使い始めた。

(4) 田植え・稲刈り

6月上旬、田植えを行った。ようやく田植えであった。それまでは雨が続き、なかなか田植えをすることができなかった。待ちに待った田植えであった。鈴木さんが前もって用意してくれた稲の苗を、子どもたちは田んぼの畦に沿って一列に並び植えていった。この時は子どもたちの保護者もいっしょに田植えを行った。10月上旬、いよいよ稲刈りである。鈴木さんを中心にした学区の方や子どもたちの保護者もいっしょになって、実り切った稲を刈る作業に入った。

3 実践を振り返って

田起こしから始まった米作りの活動は長い年月をかけてようやくたどり着いた。時間と手間と労力を必要とするこの作業は子どもたちにとっても貴重な体験となっていくはずである。この後、精米を行った後にお世話になった学区の方や子どもたちの保護者と共に収穫祭を行う予定である。作った米はもち米であるので盛大に餅つきをして、ごちそうになる計画である。子どもたちは自分たちの手で育てた米と手助けしてくれた学区の方に心から感謝する気持ちを持つであろう。そして、学区の一員としての自覚を持って6年生になってくれることを願っている。